



長い反物をむらなく仕上げるのは、気温や湿度にも左右されるので至難の業

白生地を希望の色に染め上げる「無地染」。近藤さんにとって無地染とは？

お客さまに、出来上がった着物の色を“きれい”とほめてもらうことが一番うれしいですね。色は無限にあるので、休みのたびに自然に触れて色づくりに役立っています。2代目として社長に就任してからは、ニーズに応じて小物づくりにも取り組み、クッションカバーや手ぬぐいなどを店頭に置いています。ぜひ生活に無地染を取り入れてみてください。

清澄白河はどんな町？

小名木川が流れる、静かな町。以前は工場や相撲部屋の町でしたが、半蔵門線や都営大江戸線の駅の発展と共におしゃれなカフェや雑貨店が増え、若い方が来ることも多くなりました。染色体験では中学生や外国人を受け入れています。町を訪れる若い方にも無地染の良さを知っていただきたいですね。

無地染を購入したいなら！

反物からファッションアクセサリーまでそろっています。新商品も多数。

近藤染エアトリエショップ 江東区清澄2-15-3
☎03-3641-2135 営業時間10:00~17:00



深川江戸資料館の精品処に展示されている振り袖



良寛染で作った小物のほか竹などを染色する製品の開発にも取り組んでいます

小名木川の流れる清澄白河で60年以上 今もまだ見ぬ色を求める色染職人

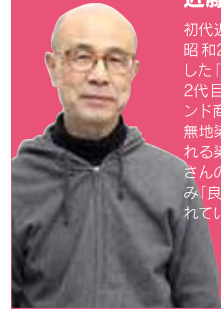


区内で活躍する、注目の人々を紹介！
第4回目は、清澄白河に染色工房を構える近藤良治さんを訪ねました。

色染職人 伝統工芸士

近藤良治さん

初代近藤由太郎が昭和26年に創業した「近藤染工」の2代目。地域ブランド商標登録済の無地染工房で作られる染物は、近藤さんの郷里にちなみ「良寛染」と呼ばれています



江戸時代から伝わる色見本



良寛染の手ぬぐい